

# 論 文 要 旨

学籍番号	81133705	氏 名	渡邊 将之
論文題目：  ものづくり産業における産業競争力のマクロ要因評価			
(内容の要旨)			
<p>日本の製造業は2000年代に入り、急速に国際競争力を失いつつあると言われている。しかし、国際競争力として取り上げられている指標は、必ずしも製造業の現状を表しているとは言い難い。官公庁の白書において国際競争力の指標として取り上げられているIMD競争力指標は、経済指標や経営者ヒアリングなどから国ごとの競争力ランキングを作成した指標であるが、観光収入等といった製造業との関係が希薄な要素も含まれている。</p> <p>そこで、本研究では、日本における製造業の国際競争力の定義の変遷を時系列で分析した上で、製造業に携わるエンジニアや幹部の方のヒアリングから、国際競争力に対する認識と競争力に影響を与える日本国内の因子及び国際的な因子を抽出した。</p> <p>その結果、これまでの競争力指標は、対象国内の取引量のみを考慮しており、近年増加傾向にある企業の海外子会社の取引量が無視されていることが判った。このような指標を用いた場合、国内生産が海外子会社の現地生産に切り替わった際には、その国企業の生産量は変化していないが、その国の競争力が低下したと算出され、実態との乖離が発生する。</p> <p>そこで、本研究では以下の2点を目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 海外の子会社の取引量を加味した、定量的な競争力指標を構築すること</li><li>② 上記指標に影響を与える因子、要因を特定すること</li></ol> <p>①では、国籍の異なる企業間の取引を考慮にいった、国内企業と外国企業の取引を元に競争力を定義し、従来指標との優位性の検証を行った。②では重回帰分析を用い、競争力に影響を与える影響要因とその寄与率を評価した。</p> <p>その結果、以下の知見を得た。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 相関分析の結果、国際競争力は為替レート、労働生産年齢人口、原材料価格指数と正の関係にあり、強い影響を受ける</li><li>2. 相関分析の結果、国際競争力は、賃金指数とは負の関係に、為替レートとは正の関係にあることから、現状においても国際競争力は製品価格要因から影響が強い</li></ol>			
キーワード (5語) 国際競争力 製造業 相関分析 回帰分析 要因分析			